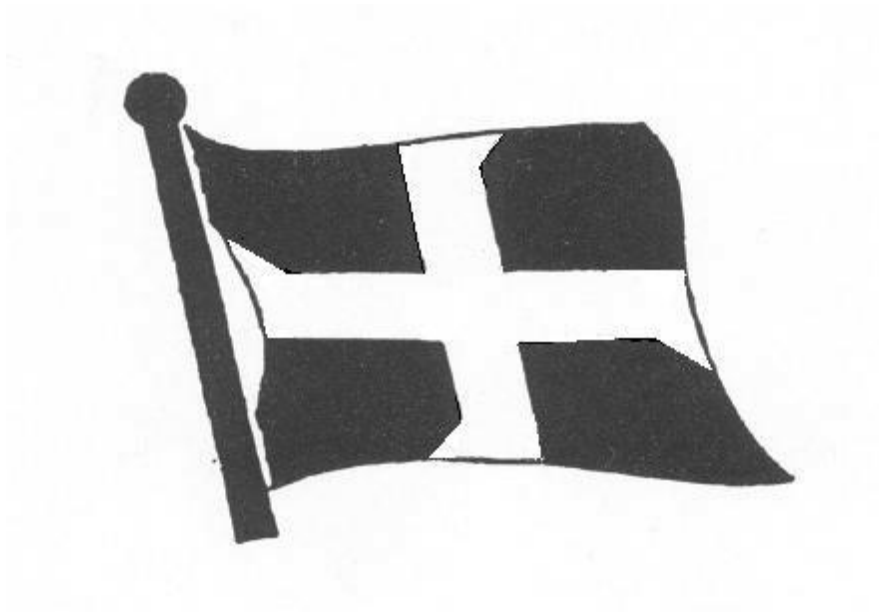


蒼穹 NEWS

No.6

東大戦展望号

令和4(2022)年 9月19日発行



—目次—

②主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

③東大戦展望

④東大戦日程

①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

《主将挨拶》

来る9月21日に西京極にて東大戦が開催されます。今年の目標は男女総合優勝です。

近年東大戦では男女ともに勝ちを重ねており、今年も事前ランキングでは優勢であります。しかし、二校対校は点差が詰まりやすく、特に男子は圧倒的な点差ではないため一人一人の本気のパフォーマンスが求められます。この東大戦では両校の強い思いのぶつかり合いで、東大は今年こそはという思いを持って京都に乗り込んで来るはずです。それを受け身になって迎えるのではなく、1点でも多く自分達で取りに行くという攻めの姿勢を忘れることなくチーム全員で戦います。

今年大活躍の跳躍、女子チームを中心にチーム全体で良い流れを生み出して今年も東大を圧倒し、全員で総合優勝を喜べるように試合を進めます。七大戦以降、同志社戦、全日本インカレを経て東大戦に向けて一人一人が力をつけてきました。その成果を出し切って拮抗した展開でも勝ちきり、勝利をつかみ取ります。

蒼穹会の皆様には、平日開催とはなりますが、ぜひ西京極に足を運んでいただければと思います。ようやく対校戦が有観客開催できるようになり、少しずつコロナ前の状況に近づきつつあり、現地での観戦にも制限がなくなりつつあります。ぜひ以前と変わらない熱いご声援をよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 眞鍋 聡志

《女子主将挨拶》

東大戦の目標は男女総合優勝としています。事前ランキング上では男女ともに京大が優勢ですが、特に男子は当日の試合運び次第で大きく戦況が変わることも予想されます。抽象的な表現になりますが、女子チームとしては対校・OPなどの区分に関係なく良い内容の試合をして、“京大の流れ”を作っていくことが役割です。今の女子チーム全体の勢いを女子だけのもので終わらせることなく、全体に還元していけるような取り組みにしていきたいと思います。

また東大戦の2日後には関西学生女子駅伝が開催され、京大京女の合同チームで出場させていただきます。関女もまた結果以上に試合内容や前後の取り組みが大きな意味を持つ試合になります。駅伝に向けた取り組みについては、院生の3人がメニューを立てるなど中心となって進めてきてくださりました。その取り組みや実際に出場することで得られる経験をもとに、来年以降のレベルアップにつなげてくれることを期待しています。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様からは日頃から多大なるお力添えをいただき、大変感謝しております。東大戦・関女ともに応援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 小西 菜月

《監督挨拶》

9月21日(水)に、たけびしスタジアム京都(西京極)にて東大戦が開催されます。目標はもちろん男女総合優勝です。1年間チームを引っ張ってきた4回生の集大成となり、有終の美を飾りたいところです。

男子に関して、ランキング上では少しアドバンテージがありますが、ひよんなことで点差が直ちにひっくり返るほど実力が拮抗しています。近年の京大の最前線で戦う跳躍勢が高得点を獲得しつつ、どれだけトラック競技で点数をミスなく重ねていけるかが鍵になります。

女子に関しては、東大の女子選手が例年に比べると人数が非常に少なく、対照的に京大の女子選手は前例がないほど人数が多く所属しています。人数の差から女子の優勝は確実でしょう。今大会では対校の部だけでなくOPの部も充実しております。是非とも対校戦の得点の結果だけでなく、記録の方にも注目していただければと思います。

最後に蒼穹会の皆様におかれましては、平日開催となりお忙しい中とは存じますが、当日はどうか、いつも変わらぬ熱いご声援のほどよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部監督 長谷川 隼

②東大戦展望

第 95 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会
兼 第 21 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会

令和4年 9 月 21 日(木)

たけびしスタジアム京都(西京極)

～短距離～

男子 100m

男子 100m には吉田 (4) 山田 (2) 長田 (2) が出場を予定している。吉田に関しては七大戦で優勝するなど今季も好調をキープしており、10 秒 7 前後の記録は充分狙える位置にいる。東大の新倉と横山は全カレリレーにも出場しており、難敵であるが、彼らを倒し一位で帰ってきて欲しい。山田に関しては出場できるかは不透明であるが、もし出来た場合には京大にとってこれ以上ないプラス要素となるだろう。今シーズンも安定したタイムを出しており、勝負強さも光っている。長田に関しては東大の丹菊との一騎討ちになるだろう。持ち前の後半区間の強さを活かし、しっかり勝ち切ってきて欲しい。今回はこちら側が万全の状態で挑める対校戦ではないので、補欠の室 (4) 藤浦 (3) の力も借りながらの総力戦となるだろう。(高橋惇)

男子 200m

男子 200m には室 (4) 藤浦 (3) 長田 (2) が出場する。室に関しては院試終了後からしっかりと練習が積めており、調子も上向いてきている。200m の東大 3 人は手強い相手となるが、競り勝って欲しい。藤浦に関しては今シーズン PB を更新し、短短の中で今最も勢いのある選手だろう。東大の 3 番手と資格記録は 0.3 秒離れているが、それを覆す走りに期待がかかる。長田に関しては東大の選手と少し資格記録が離れているが、諦めずに食らいつけば何かが起こるのが対校戦である。難しい試合とはなるが魂の走りを見せて欲しい。(高橋惇)

男子 400m

角谷、岩本、益田の 3 人が出場する。

角谷は全選手の中で 1 番遅く、タイムも離れているため攻めの走りに徹してきて欲しい。山城記録会で復調の兆しが見えたと本人も言っていたので、50 秒台や PB を狙えるはず。

岩本は七大戦以降ケガや喘息であまり走れていない。が、七大戦では勝ってきた相手なので落ち着いて戦ってきて欲しい。

益田は全カレの 1 走 LAP で 48“9 を出し、今が 1 番走れている。全カレの走りがもう一度できれば 1 位が見えてくるだけで無く関カレ B 標も狙えるので、ぜひ勢いこのままに走ってきて欲しい。(室)

男子 110mH

110m H は、4 回生中村鮎夢、3 回生岩崎光起、2 回生五十嵐聖が出場する。

中村については、怪我で思ったように走れず、ハードル練を積むことがあまりできていないため東大戦に完全に合わせられるか微妙なところがある。思うように走れないかもしれないが、最後の東大戦を楽しんでほしい。

岩崎については、体調不良でしばらく練習に参加できていなかった。また、脚の怪我があり主戦場を 400mH としてきた選手であるため 110mH の為の練習はあまり詰めていない。しかしながら資格記録は 110mH の練習をあまり行わないなかで出した記録であるため、ある程度経験を詰んだ現在であれば PB 以上は期待できると思う。依って、ランキング 1 位とは差がありますが、相手選手の調子によってはランキングを返すことも狙えると思われる。

五十嵐については、今シーズン中何度となく PB を更新している勢いある選手だ。コンディションがよければ PB の更新はかなりあり得るが、ランキングにおいては上位とタイム差があるので、まず自分の走りをしっかりして PB の更新を期待したい。(田中)

男子 400mH

400mH について、現状では、3 回生岩崎光起、2 回生金盛圭悟、1 回生高橋昂生が出場する。

岩崎は、110mH でも述べたが、脚の怪我もありあまり詰めていない。そういう中でも上手くまとめてタイムを伸ばせる選手ではあるし、ランキング 2 位まではタイム的に差があるため、3 着を固めて欲しいなおもう。

金盛は、今シーズンの同志社戦において PB を更新してまだまだ可能性を残している選手だ。前半の入りや後半を上手くこなせば PB 更新は固く、関カレ B 標(54.8 秒)も期待される。

高橋は、体調不良で練習に参加できていない時期があったが、タイム的には圧倒的なランキング 1 位だ。七大戦の負傷もあってあまり練習をつめていない状況ではあるが、資格記録で 1.5 秒以上差があるので 1 着を死守してほしい。(田中)

男子 4×100mR

男子 4×100m リレーには吉田(4)室(4)藤浦(3)山田(2)長田(2)石原(1)が出場する。走順は未定であり、決定次第改めて報告させて頂く。東大スプリント陣は層が厚く、難しい試合になるだろうが、七大戦のリベンジを果たして欲しい。(高橋惇)

男子 4×400mR

七大戦では東大に先行されたが、京大は 3 本で明らかに疲弊していたのと東大は個人で欠場してでもマイルを走っていた選手がいたことから、分が良い勝負をできていると思っている。最後の種目で勝って、優勝したい。(室)

女子 100m

女子 100m には三好 (3) 齋藤虹 (1) が出場する。三好に関しては今シーズンも良い状態で走ることが出来ている。身体面では PB、そして蒼穹新記録を出す準備は出来ている筈なので、あとは精神面を本番までに整えることが出来れば、優勝という栄冠に蒼穹新という花を添えることが出来るだろう。齋藤虹に関しては 1 年生ながら今シーズン素晴らしい走り続けている。三好との相乗効果で 12 秒台を出し、東大を完膚なきまでに叩きのめす走りを期待したい。(高橋惇)

女子 400m

中野と三好が出場する。

中野は七大戦ではケガもあってあまりスピードが出せない状態であったが、最近は短時間のスピード練に参加できるくらい回復しているため、リベンジで 60 秒を切ってきて欲しい。

三好は最近疲労からくる倦怠感で苦しんでいるが、200m で PB 出すくらい走れている状態なので、しっかり休んでまた 60 切りのレースをして欲しい。(室)

女子 4×100mR

女子 4×100m リレーには三好 (3) 森尾 (3) 平岡 (2) 中野 (2) 平松 (1) 齋藤虹 (1) が出場する。こちらも走順は未定であり、決定次第報告させて頂く。七大戦では東大が不出場であったこの種目において、ミスすることなくバトンを繋ぐことが出来れば京大の勝利はまず間違い無いだろう。問題は記録との勝負、49 秒台を目指して頑張ってもらいたい。(高橋惇)

～中距離～

男子 800m

本種目には島村(3)西川(2)杉原(1)が出場する。1 分 51 秒の自己ベストを持つ東大北岸が実力では抜きん出ており、東大二番手と西川杉原、三番手と島村の争いが予想される。西川は七大戦、新人戦と続けてラウンドを進めており、安定の勝負強さを見せる。確実に二番手を死守した

い。東大北岸は昨年同試合で打ち勝った相手であり、一年で水を開けられてしまった悔しさは来年にとっておき、今回は確実に点を稼いできてほしい。杉原は同志社戦で実力の片鱗を見せた。もっとも強さのある選手なので、先輩の背中も借りつつ東大二番手に確実に勝ちたい。次期チーフの島村はこの夏大きく成長した。前述の2人とは異なり、チャレンジャーの立場である。自信を持って勝負してきて欲しい。(山田)

男子 1500m

本種目には川口(4)小井(2)西川(2)が出場する。東大はかなり戦力を注ぎ込んできており、難しい展開が予想される。西川は今夏意識的に距離を踏んでおり、成果を発揮したいところ。持ちタイムでは拮抗しているので、1人でも多く食いたい。川口は苦手なスパートの練習に取り組み、手応えを感じている。他の4回生の思いも背負い、主務としても深く関わってきた最後の対校戦で活躍を見せて欲しい。小井はシーズン中盤からうまく練習が積めておらず少々厳しい状況ではあるが、消極的な走りに終わってしまっただ七戦の反省を活かし、できる限りレースに絡みたい。(山田)

女子 800m

本種目には日野谷(3)新保(2)が出場する。コンディションの都合等で新保は補欠の小倉(1)との交代の可能性もある。新保は持ち記録で抜けており、単独走が予想される。狙うは2'25"切りだ。持ち前の積極性と安定感で、勢いをもたらし走り期待がかかる。日野谷は資格記録に近い東大の選手との勝負。タイムも狙うとなると場合によっては使われる展開も考えられるが、対校得点には余裕もあるため女子チームの背中を借りて自分のレースをしたい。迷うことだけはないようにイメージを練って試合に臨みたいところ。小倉は入部以降怪我を繰り返しており、今回は怪我を悪化させないことが大前提でのエントリーになる。でき

る範囲でのトレーニングは継続してくれているので、自信を持って望んで欲しい。(山田)

女子 3000m

本種目には周藤(2)石原(1)が出場する。

石原は9月前半に故障もあり走れない時期があった。現在復帰途上で万全の状態ではないものの8月までは継続的にしっかり練習を積むことができており、またPBを比較しても2番手以降と大きな差があることから優勝は堅いだろう。

周藤は日野谷と同様、勝負の試合となる。これまでの対校戦では上位になかなか手の届かないことが多かったが、今回ついに真っ向勝負できる。日野谷同様女子チームの背中を借りて、勝負を楽しんできてほしい。(山田、高橋侃)

～長距離～

男子 5000m

男子 5000m には梅原(2)、三嶋(2)、服部来(1)が出場する。エントリーの段階では東大の3人が14分台であり京大が4、5、6番手であることから、厳しい戦いになることが予想される。梅原は自身初の対校戦である7月の七戦にて3000mSCでPBを残したが、夏場にはパート随一の練習を積んだことでそこから大きく実力を伸ばした。3番でのゴールを狙いつつ少なくとも15分台では走り切りたい。三嶋は前半シーズンから成長著しい選手である。夏場は体調を崩し練習を積みなかった時期もあったが、先日行ったメンバー選考の練習では良いタイムを残した。当日は梅原と引っ張り合いながら積極的なレースを期待したい。服部はこの試合が自身初の対校戦となる。まだ5000mという距離には不安を残すものの夏に磨いてきたスピードは光るものがある。持ち前の強気なレース運びで果敢に前を追ってほしい(高橋侃)

～競歩～

男子 5000mW

男子5000mW には池田(4)、尾原(3)、原(3)が出場する。池田に関しては練習状況は満足いくものではないが、落ち着いて堅実なレースをすれば十分勝てる相手である。尾原と原は、経験は浅いものの七大戦では結果を出しているの、臆せず積極的なレースを期待したい。(池田)

～跳躍～

男子走高跳

鴛原、山中、田中が出場する。鴛原は七大のケガはまだ完治していないが 3 位との差は 10cmあり、実力通りなら点は守れると予想される。調子が悪い中でも記録を出せる能力のある選手なので 2 位は堅い。山中は先日の全カレを優勝し、実力は十分。東大の選手達に力の差を見せつけていかにプレッシャーを与えられるかという戦いになる。

田中は3位以下の選手は資格記録が 1m90 で並んでいて、その中でも今年PBを更新し勢いのある田中はやや優勢と思われる。七大戦に続いてPB以上の記録を狙っていききたい。(坂本)

男子棒高跳

1 回生吉富は怪我のため棄権。2 回生深井も怪我のため現状出場は未定。今西は今回記録を狙いたいところではあるが、他種目との兼ね合いもあるので今回は順位を優先していく予定。東大の選手とはかなり実力が開いていて余裕をもった試合展開が予想される。中川は京阪神以来の棒高跳の挑戦となる。ブランクはあるものの体力面だけで見れば確実にレベルが上がってきているので、東大の同じ記録帯の選手と接戦になることが予想される。(坂本)

男子走幅跳

高橋に関して最近では体調不良で練習出来ておらず、順位を守るだけの戦いになることが予想される。コンディションのブレがある中で安定して記録を出しているかが試される試合となる。齋藤は今季、怪我などしながらも記録は安定していて、順位に関しては、東つでも上を狙いたい。眞鍋はどこまで記録を伸ばせるか、PB、大会記録も目指したい。小森は同志社

大の選手がどれだけ跳んでくるかというところに大きく左右される可能性が高い。七大戦では勝っているのでここでも勝負強さを発揮して欲しい。梶に関して今季は走幅跳の試合にあまり多く出ていないが、記録は 6m80 付近で安定している。齋藤と同じく七大戦では勝っているため堅実に順位をキープしてもらいたい。(坂本)

男子三段跳

齋藤に関して今季は PB を更新して調子は良いと言える。東大の選手達とも実力は開いているので、余裕があるように見えるが、疲労からここ最近では跳躍練習があまり出来ていないため、油断ならない戦いとなる。梶は今季、安定して 15m 前半の跳躍をしており、優勝は確実と思われる。山中と同じく圧倒的な力を見せ相手選手達にプレッシャーを与える試技に期待したい。松井は中川とのトライアルでの接戦を経て出場権を勝ち取った。高校時代から十分な実力を持った選手であり、調子は日毎良くなってきている。本人も 14m を跳びたいと言っており、殻を破るジャンプに期待したい。(坂本)

女子走幅跳

小西と新保が出場する。小西は今季まだ pb に近い記録は出せていない。全カレで使い切れなかったバネを使いたいと本人も意気込んでいるので、複数種目の出場にはなるが、順位だけでなく記録も狙って欲しい。新保は最近フォームの改良に取り組んでいる姿が見られて、本人も今季まだ跳べていない 4m50 を跳びたいと言っているの、まずその記録を狙って欲しい。(坂本)

～投擲～

男子砲丸投

男子砲丸投には今西、眞鍋、小森が出場する。9m 付近での得点争いが激しく、今西、小森に勝負強さが求められる。今西は今期の記録では 9m を投げられてはいないものの、PB では負けていないため、一戦で一般規格の初戦を経験した。ポテンシャルでは 10m を十分に投げられるはずなので、上を見て記録

を狙う。(眞鍋)

男子円盤投

男子円盤投には今西、眞鍋、安藤が出場する。30m手前に選手が多くおり、数センチでの勝負も予想される。眞鍋は今季調子が良いながらも投げられていない40mを超えることができるのか、挑戦する。安藤は30mを超える記録を何本残せるのか、関西インカレB標準36mに向けて勝負する。今西は資格記録では6番手だが、上との差はそこまで大きくなくランキングを返すチャンスは十分にある。最後の東大戦でのPB更新に期待する。(眞鍋)

男子ハンマー投

男子ハンマー投には眞鍋、安藤、小森が出場する。東大の1番手が専門選手で一つ抜けている。それに眞鍋がどこまで迫れるか、PBを更新して少しでもプレッシャーを与えたい。安藤と東大の2番手3番手には大きな差はなく、どれだけ自分の投擲ができるかで順位は大きく変わる。1点でも多く取りに行く。小森はハンマー投初挑戦となる。これから対校戦でも多く出場することが予想されるので、対校戦、ハンマー投の経験として思い切って挑戦する。(眞鍋)

男子やり投

男子やり投には今西、眞鍋、島村が出場する。40mを超える選手が5人、50mを超える選手が0人という大混戦である。この混戦で1点でも多くもぎ取りたい。今西は京大1番手として50mを超える投擲を期待する。眞鍋は自身三度目となるやり投の試合、ポテンシャルでは50mを超える投擲も期待できるので、最後の東大戦主将としての一本を出し切りたい。島村は専門外ながら出場する。40m付近を投げることができれば相手次第ではあるがランキングを返す可能性も出てくる。力を出し切りたい。(眞鍋)

女子砲丸投

女子砲丸投には小西、篠田が出場する。東大は専門の選手がいいため、二人での記録の勝負となる。二人ともに全カレからの連戦になるが好記録での勝負を期待したい。小西は関カレで10mを越えしたが、それ以降は投げられていない最後の東大戦で集大成となる一本のPBを期待する。篠田は今季大きく成長したその力を今回も見せたい。今回からグライドに挑戦するため、来年以降につながる試合にしたい。(眞鍋)

③東大戦日程

第 95 回東京大学・京都大学対校陸上競技大会
兼 第 21 回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会
令和4年 9 月 21 日(木)
たけびしスタジアム京都(西京極)

9:30	開会式		
10:00	男子400mH決勝	男子走高跳	男子円盤投
10:15	男子100m決勝 男子100mオープン		
10:30	女子100m決勝 女子100mオープン		
10:45	男子1500m決勝 男子1500mオープン		
11:15	女子1500m決勝 女子1500mオープン	男子走幅跳(11:30) 女子走幅跳(11:30)	
12:15	男子400m決勝		男子ハンマー投(12:10)
12:40	女子800m決勝 女子800mオープン	男子棒高跳(12:45)	
13:00	男子4×100mR決勝		
13:15	男子5000mW決勝 男子5000mWオープン		男子砲丸投(13:45) 女子砲丸投(13:45)
13:55	女子400m決勝 女子400mオープン		
14:05	男子800m決勝 男子800mオープン		
14:30	男子200m決勝 男子200mオープン	男子三段跳(14:55)	男子やり投(14:40)
15:00	男子110mH決勝		
15:20	女子3000m決勝 女子3000mオープン		
15:40	男子5000m決勝 男子5000mオープン		
16:05	女子4×100mR決勝		
16:15	男子4×400mR決勝		
16:30	閉会式		



蒼穹ニュース 令和4年度 第6号
令和4年 9月19日発行

発行所: 京都大学体育会陸上競技部
編集者: 紀之定玲司・平山悦章・益田棕多(副務)
特別協力: 高重広・平林里和子・高山兼輔(学連員)
写真担当: 五十嵐聖・松本良平・三嶋友貴(写真係)

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp (平山)